



下手渡地区防災会（月舘町）
防災研修会 6月16日開催

特集

災害は、今日起こるかもしれない だから

助け合って生きる

過去の災害（伊達市）

災害名	災害発生年月日
昭和 61 年台風 10 号・集中豪雨	昭和61年8月4日～5日
平成元年台風 13 号	平成元年8月6日
平成 3 年台風 21 号	平成3年10月7日～13日
平成 10 年大雨・集中豪雨	平成10年8月27日～31日
平成 11 年大雨	平成11年9月14日～16日
平成 14 年台風 6 号	平成14年7月10日～12日
平成 19 年台風 4 号	平成19年7月15日
平成 19 年台風 9 号	平成19年9月5日～6日
平成 22 年大雨・洪水	平成22年7月6日～7日
東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）	平成23年3月11日
平成 27 年関東・東北豪雨	平成27年9月10日～11日
令和元年東日本台風	令和元年10月12日～13日
令和 3 年福島県沖を震源とする地震	令和3年2月13日
令和 4 年福島県沖を震源とする地震	令和4年3月16日

ここ数年を見ても、台風や地震が頻発していることがわかります。中には、農地の冠水や家屋が全壊してしまう被害もありました。地震は規模が大きいと、余震が収まるまでの期間が長くなるため、注意が必要です。

" 自主防災 " のすすめ

命を守るには…
近年、地震や台風、豪雨・豪雪などで多くの尊い命や貴重な財産が失われています。県や市をはじめとする各防災機関は、災害に備えてさまざまな対策をしています。が、大規模災害が発生した際、被害を最小限に

自主
防災組織

防災士

い止めるために地域の皆さんの防災活動が必要です。本特集では、二つの取り組みを紹介していきます。



月館1・2・3番組防災会
庶務 遠藤 幸治さん

1人で"100"ではなく、100人が"1"やる

防災訓練は久しぶりの「地域での共同作業」ができた場でした。大事なことは、「やらされる」のではなく、自主的に違和感なく出席できることだったので、この出席数はありがたかったです。組織の庶務を通して感じたことは「一人で力を入れすぎないこと」です。防災と聞くとかしくまってしまうので、まずは軽めな気持ちで参加することが、助け合う地域づくりにつながると思いました。

防災のヒントは「ふれあい」

地域で安心して暮らしていくために、日頃からのご近所付き合いが大事です。行政に頼りたくなる気持ちもわかりますが、行政も人。同じように被災するだろうから、細かい住民の情報を持つ地域もがんばる必要があります。個人情報に厳しい世の中だとは思いますが、「避難できているのか、家で倒れているのかわからない」なんて状況をつくらないために、隣同士の家事情を把握できると良いですね。



災害は「まさか」ではない
—いつか「必ず」くるもの

自主防災組織

地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織です。

防災訓練に補助金が出る！

市では自主防災会を結成し、防災訓練を行った際に補助金を交付しています。紹介した月館1・2・3番組防災会の合同防災訓練も、市の補助金を活用しています。

また、災害用備蓄品などについても補助金を交付しています。補助内容の詳細については防災危機管理課へ確認をお願いします。

自主防災組織を作るには？

ホームページ「自主防災組織の結成に関する手続き」をご確認いただくか、防災危機管理課までご連絡をお願いします。

- 問い合わせ先
防災危機管理課危機管理係
☎ 575-1197



市 HP

防災こそ元気づくり！

防災訓練の講話では、地域全体で災害を不安なく乗り切れることを学びました。「避難する・助けにいく」には体づくりが重要です。誰もがいざという時に動けないという事がないように、体づくりに取り組むことでスムーズな避難活動につながります。月館町は山と川に囲まれた地なので、避難場所への移動で困らないように、正確な情報を得ることと、健康でいることを心がけていきたいです。

伊達市の結成率は約60%
自主防災組織の結成率は年々増加していますが、伊達市でまだ結成をしていない自治会・町内会なども見受けられます。自主防災組織は、災害が頻発する日本において、ますます注目度が上がっているため、この機会にぜひ検討してみたいかがでしょうか？
目指すは、伊達市内の結成率100%！

どんな活動をしているの？

平常時

- ・防災知識の普及
- ・地域の災害危険箇所の把握
- ・火気使用設備器具などの点検
- ・防災資機材の備蓄と整理、点検



・防災訓練の実施（炊き出しの準備）



救助の手を差し伸べることが できるのは「地域の人々」

頼るのではなく、助け合う

大規模災害発生時は道路の寸断や救助・救援要請の集中が想定されます。いざという時に公共防災機関の支援、救出、救護が期待できないことがあります。このような事態が発生したときには、各地域で、共助による防災活動を展開し、お互いの命を守らなければなりません。
高齢者、要介護者、体などに障がいのある人などの要配

慮者を救えるのは、身近にいる地域の皆さんです。
自主防災組織を結成し、災害発生時の役割分担などの体制を整えましょう。避難行動要支援者、避難経路などの情報を共有することで、多くの命を守ることができます。
今号は、「月館1・2・3番組防災会」が昨年10月に合同で行った防災訓練を紹介。50人が集まって課題を共有するシーンは、地域のあるべき姿を表しています。

災害発生時

- ・災害情報の収集、住民への迅速な伝達
- ・出火防止と初期消火
- ・住民の避難誘導と安否確認
- ・被災住民の救出・救護
- ・給食・給水 など

「その時」に動けるように
「日常」から備える



地域が一つになれば
守れるものも増えてくる

資格取得に補助金が出る！

市では防災士資格取得に係る経費を補助しています。補助対象は、研修講座の受講費用、研修講座開催地（仙台か郡山）までの交通費2日分です。（上限71,000円）

申請方法 市ホームページを参照の上、防災危機管理課までご連絡ください。



市 HP

伊達市登録防災士とは？

伊達市に住所を有する防災士、市内の事業所または学校に在籍する防災士は、登録防災士として市に登録が可能です。

登録防災士には防災研修会への案内や防災訓練への参加依頼などをさせていただきます。地域防災力強化のため、未登録の防災士の皆さまは登録をお願いします。



市 HP



県内の町内会長、防災士が出席
(福島県リーダー研修会)

「備えあれば憂いなし」は なくならない



防災専門補佐官 すずき さとし 鈴木 哲

～経歴～

防衛大学卒業後、幹部自衛官として約30年間勤務。6月から伊達市の防災専門補佐官に着任。経験を生かし、防災に貢献する。

今年1月1日に能登半島地震が発生し、現在も復興中であり被災されている方がいることを皆さん承知していると思います。発災時、自主防災組織により無事に避難された方もいました。自主防災組織が機能したのも日頃からの活動の成果の表れです。

「自分の生命は自分で守る」のみではなく「自分たちの地域は自分たちで守る」ために、たくさんの人に防災士の資格を取得して頂きたいです。また、自主防災組織の結成にも努めていきましょう。

無理に考えない。当たり前を作っていく

防災に関心を持つ一つのきっかけとして、足を踏み入れやすい自主防災組織と防災士を紹介しましたが、日常にはまだまだきつかけが転がっています。

例えば近隣の人と「〇〇さんが、けがをして松葉杖を使ってるらしい」「〇〇時頃の〇〇通りは混み合ってるよね」といった日常会話の積み重ねが大事。ふいに知識を忘れてしまっても、共有した情報が人の命を救うのかもしれない。



ハグ HUG…避難者の年齢や性別が書かれたカードを、避難所に見立てた図に適切に配置できるか、出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

●問い合わせ先

防災危機管理課危機管理係 ☎ 575-1197

出前講座を実施しませんか

防災訓練などの際に、防災専門官および市職員が自主防災組織に直接伺い、講話や説明会を行います。

講座内容（一例）

- ・自主防災組織の活動
- ・災害時の対応
- ・地区防災計画の作成
- ・マイ避難シートの作成
- ・HUG（避難所運営ゲーム）など

※講座の内容に要望がある場合は、防災危機管理課にご相談ください。

出前講座の依頼方法

防災危機管理課に申し込みが必要です。出前講座を希望する場合は防災危機管理課までご連絡ください。



災害の記憶が かすんでしまわないように

防災士

地域の防災力をあげ、地域防災の担い手となる。家族や地域、職場の人の命を守る知識や技能を身につける資格。



災害にあった際は地域で協力して救助し、被害を最小限に食い止めることが重要です。防災に特化した資格を得ることで見えてくるものがあります。ここでは防災士の資格の取得方法や防災士の声を紹介していきます。

知れば知るほど見えてくる

77歳。資格を「取って終わり」ではなくて

町内会に一人は防災士がいることが望ましいと思い、自分の人生の杖になればと受験しました。テレビで「クラッシュシンドローム※（きめつ 挫滅症候群）」の話を見た時、勉強したのはこれだったのかと関心を持つことができましたね。今までは何となく聞き流していた情報も気づけるようになったのはうれしかったです。70代だからと諦めず学んだことは繰り返し学習し、自分と地域の今後に生かしていきます。

自分を守る5分のゆとり

日本は地震があるから、常々心がけてないと対応できない災害ばかり起きます。災害に限らず日常には交通事故しかり、危険がたくさん潜んでいて、その時に自分を守るのはやはり備えだなと。パニック時は特に、普段通りの行動ができなくなるから。知識はもちろん、物資、時間もそうです。時間でいえば、最低でも5分のゆとりを持つことを習慣化することで、咄嗟の時に慌てず行動ができますからね。常々の小さなことが、本当に大切だと実感していますよ。

これから防災士を受験する人へ

正直、まだ「防災士って何？」と言われる事があります。認知度を上げるためにも、年齢関係なく、どんどん挑戦してほしいですね。何せ、私も取得できたのだから大丈夫！

※ クラッシュシンドローム … 災害時などに、長時間重量物に挟まれていた傷病者が、時間を経て腎不全や急性循環障害で死亡してしまう病態。

伊達市登録防災士

（令和5年資格取得）

佐藤 稔さん（梁川町）

だて市政だより 2024.7 6